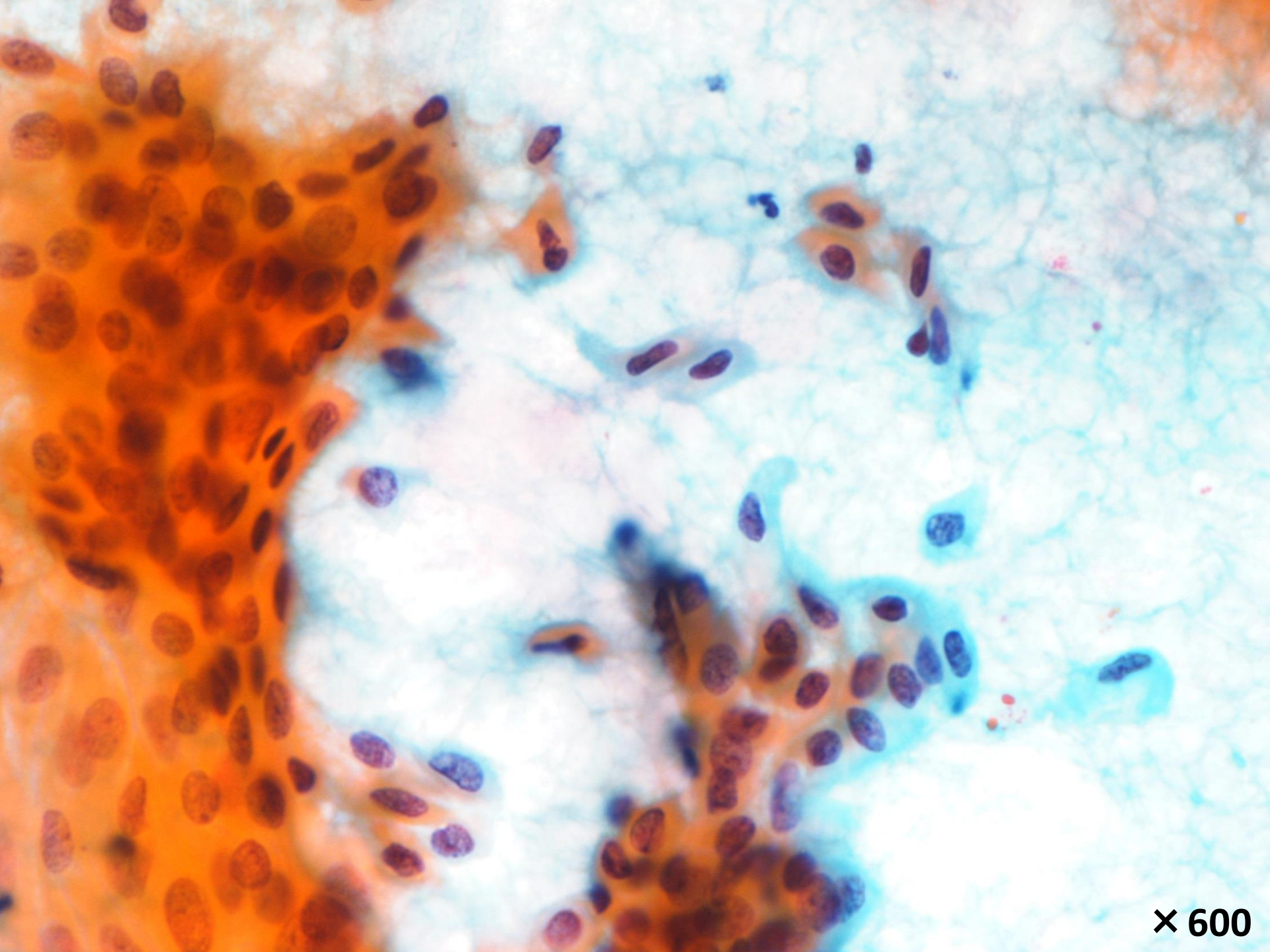
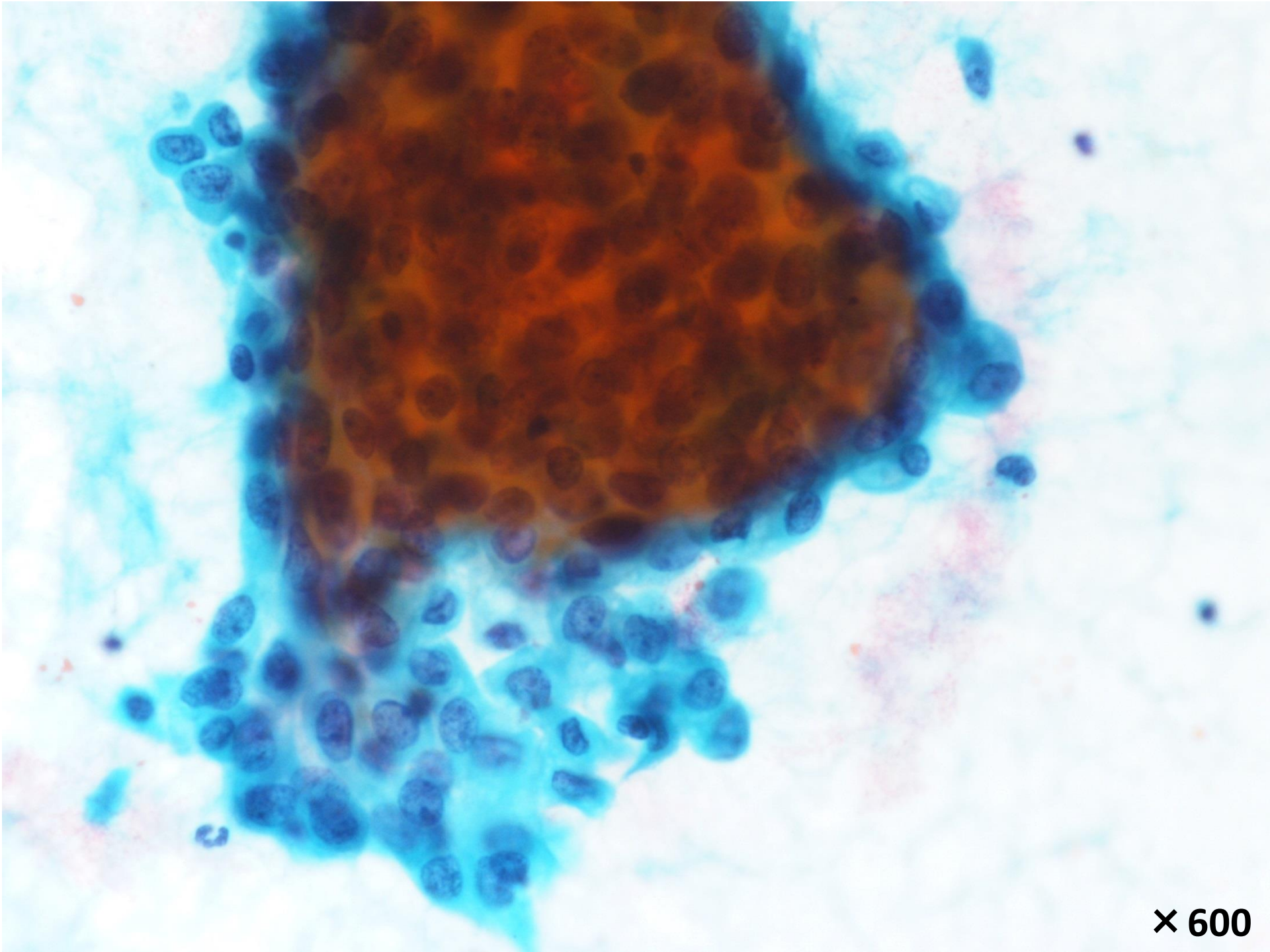


# 症例検討 婦人科 解説

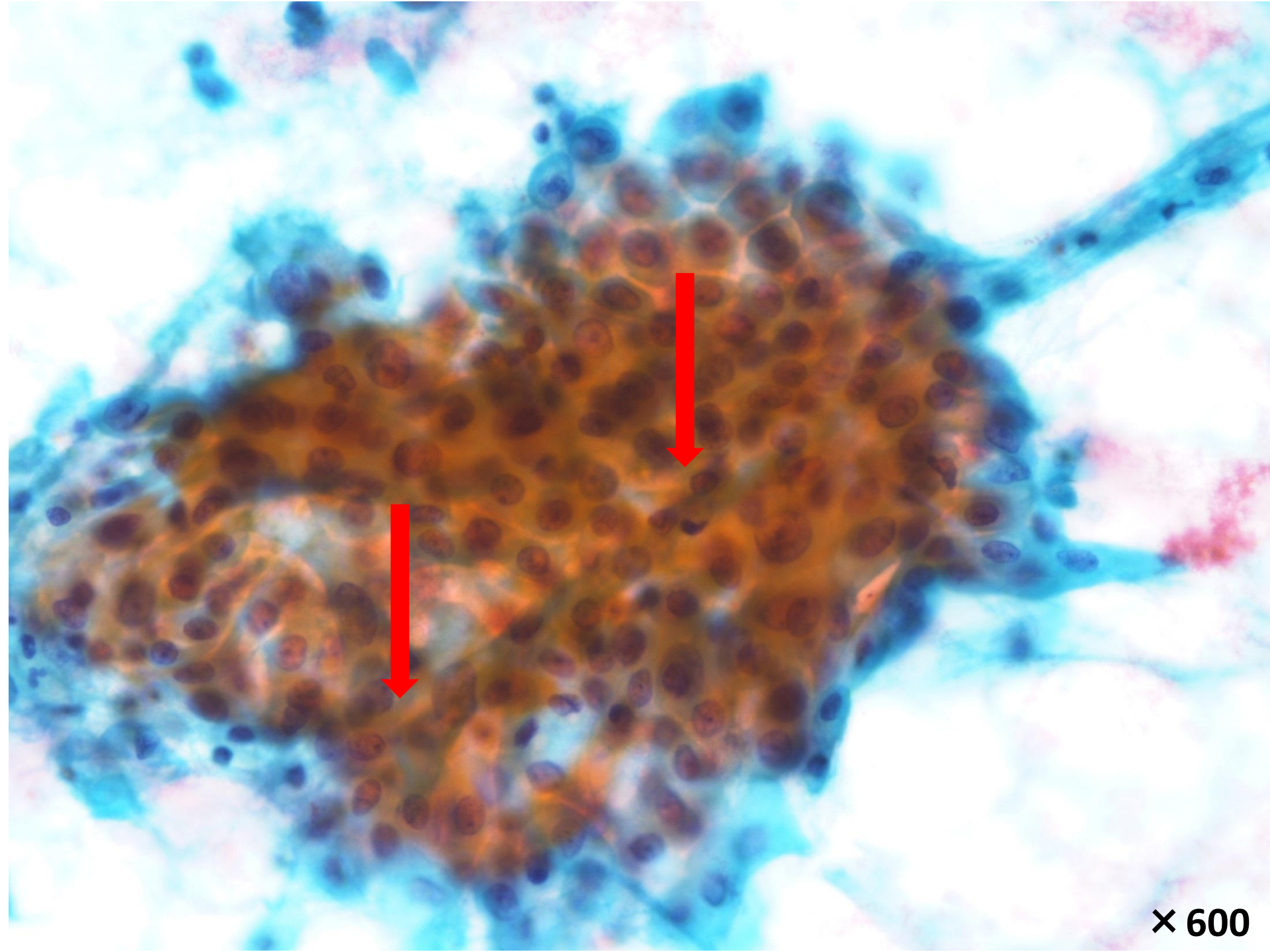
- **70歳代 女性**
- **主訴:不正出血**
- **既往:小脳梗塞、高血圧、高脂血症**
- **MRI:子宮頸部に3.6cm大の腫瘤**
- **性状:乳頭状、易出血性の腫瘤**
- **検体:子宮腔部 サイトピックによる擦過**



× 600



× 600



× 600

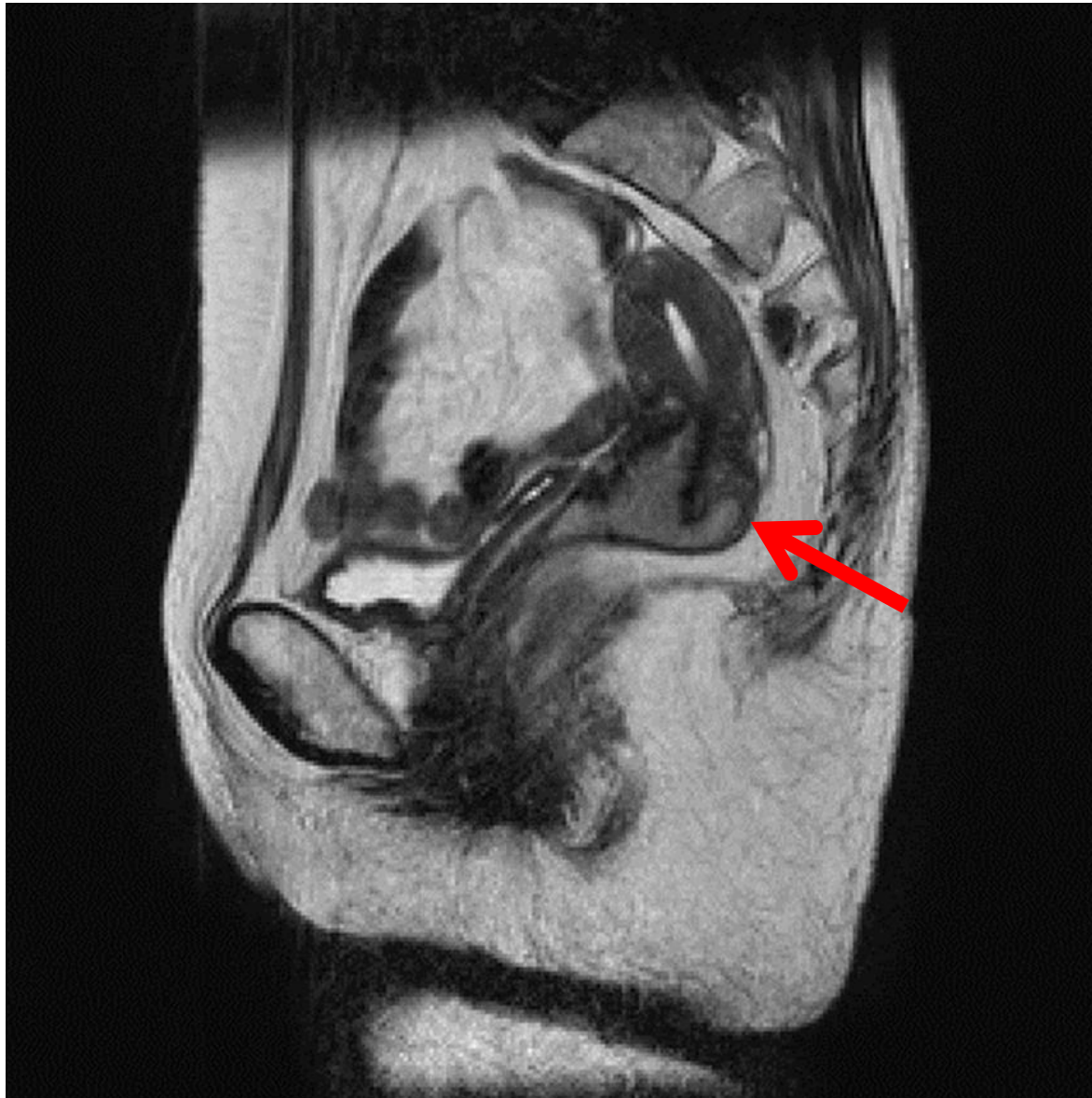
# 細胞所見

- 出血性、軽度の炎症性背景
- 異型細胞は散在性ないし、敷石状や重積した集塊を形成し多数出現していた
- N/C比の増大傾向
- 核形は円形・類円形・卵円形で軽度の不整を示す
- 核クロマチンの増量は軽度で比較的均一
- 紡錘形の角化傾向を示す細胞の出現

# 細胞診断

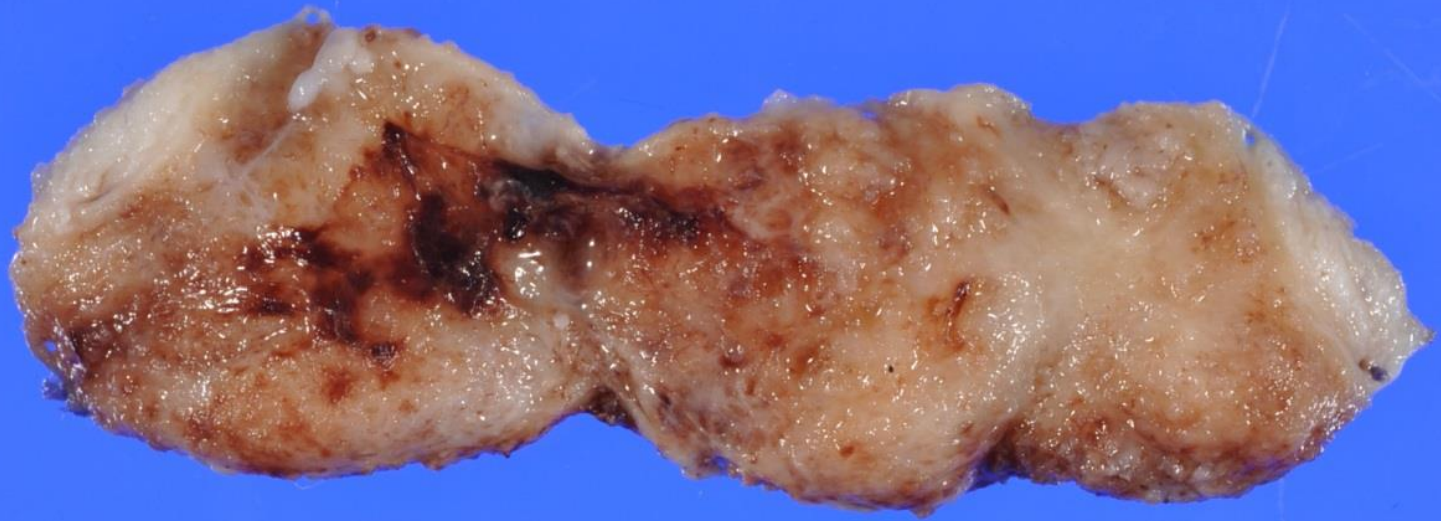
Class III ASC-H (Atypical cells)

# MRI

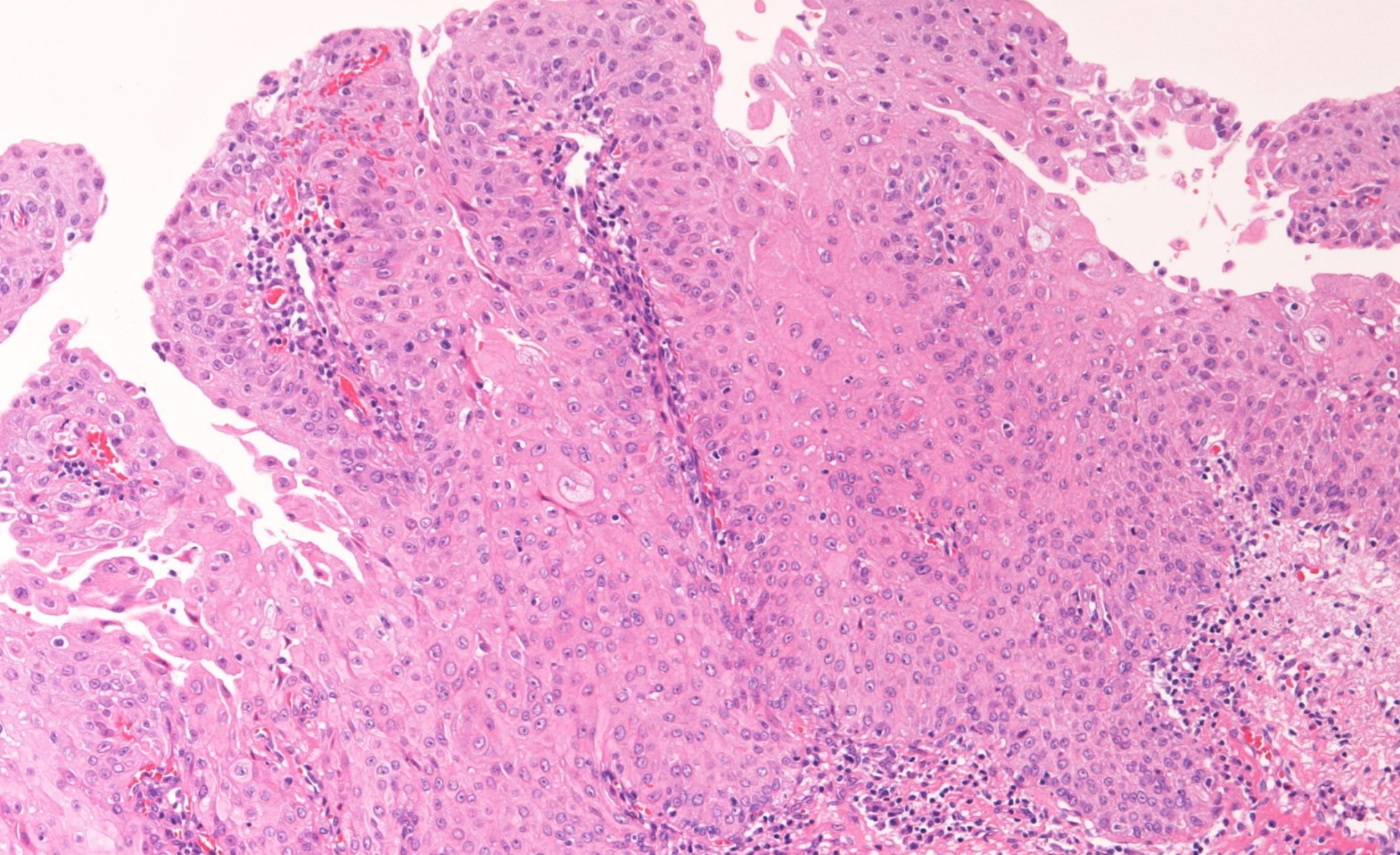


子宮頸部に3.6cm大の腫瘍





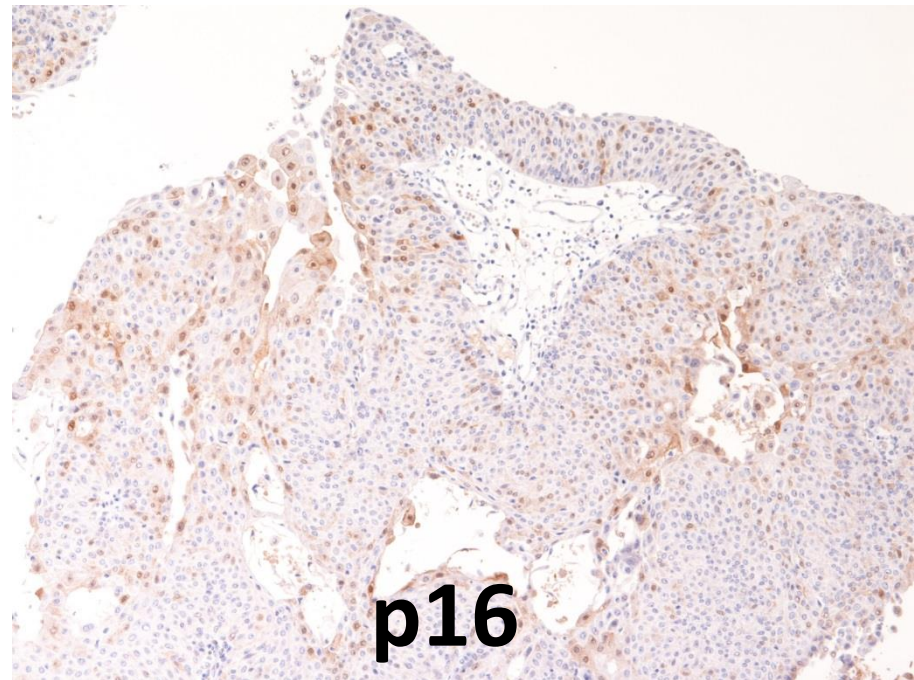
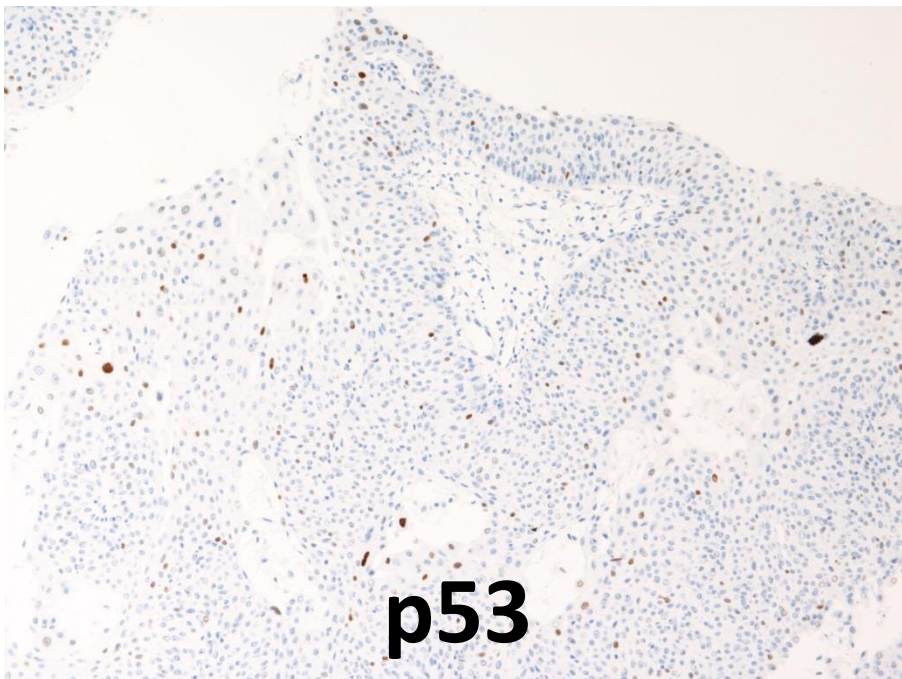
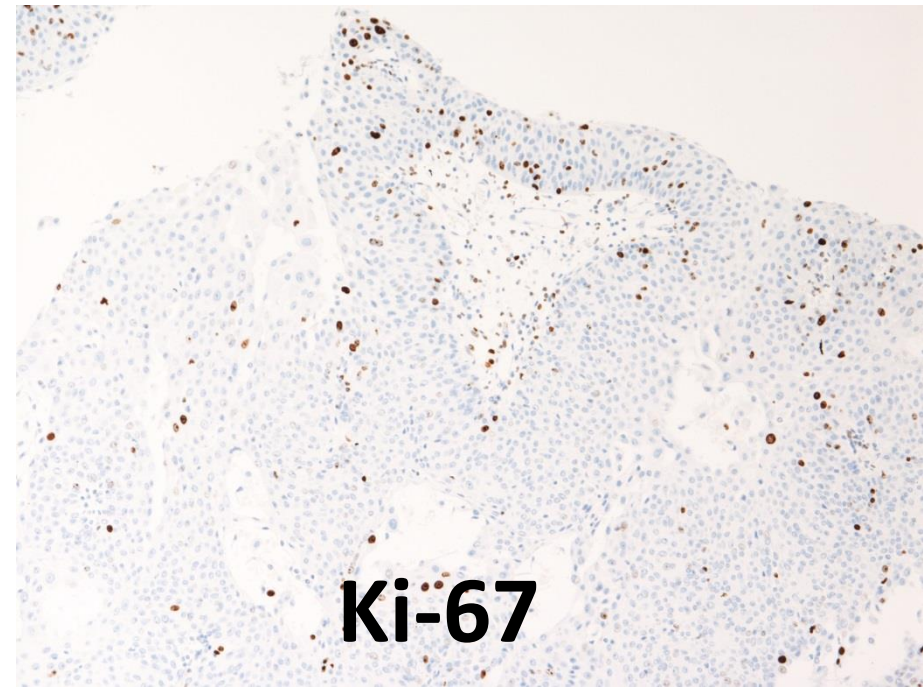
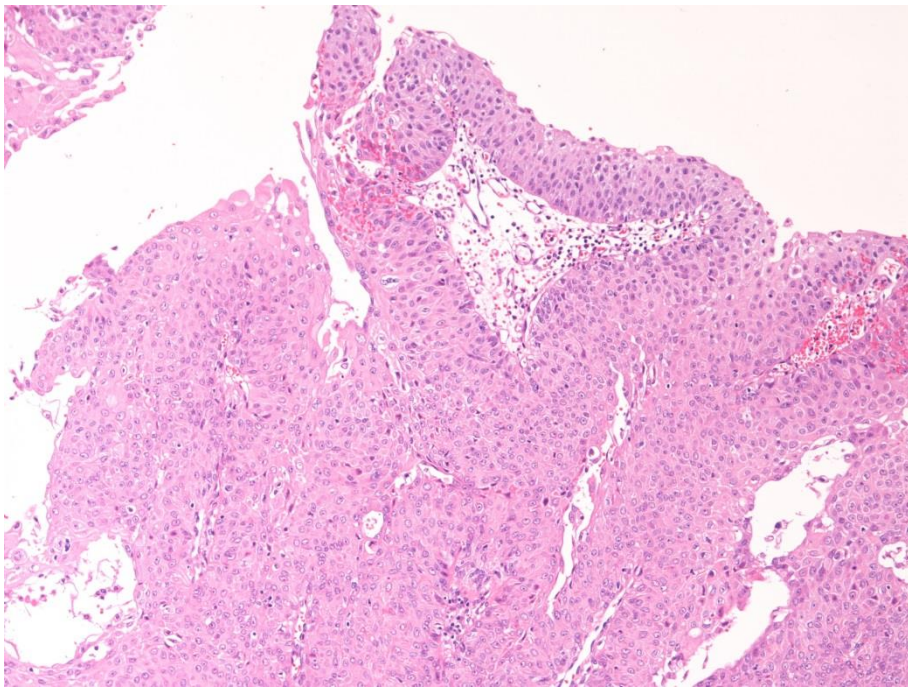
円錐切除の組織像は個々の細胞異型は軽度の化生細胞様の異型細胞が血管間質を伴い乳頭状に増殖していた。



核クロマチンの淡い卵円形で腫大した核を持つ未熟な化生様細胞が血管間質を伴い乳頭状に増殖している。個々の細胞異型は軽度で配列極性の乱れはほとんど認められない。核分裂は少数のみ認められ、コイロサイト-シスは認められない。



乳頭状集塊の最表層部には異型を認めない頸管腺上皮細胞が認められた。



# 組織診断

乳頭状未熟化生

Papillary immature metaplasia

# 乳頭状未熟化生

## Papillary immature metaplasia (PIM)

未熟扁平上皮化生上皮が著しい乳頭状増殖を示す

子宮頸部癌取り扱い規約上は尖圭コンジローマの一部とされている

# 扁平上皮化生 (squamous metaplasia)

扁平上皮-円柱上皮境界(SCJ)の上皮に損傷が加わり  
円柱上皮直下の予備細胞が増生し扁平上皮へと分化する

予備細胞の過形成



基底細胞ないし傍基底細胞に類似した  
N/C比の高い立方状細胞が増生し、重層化する

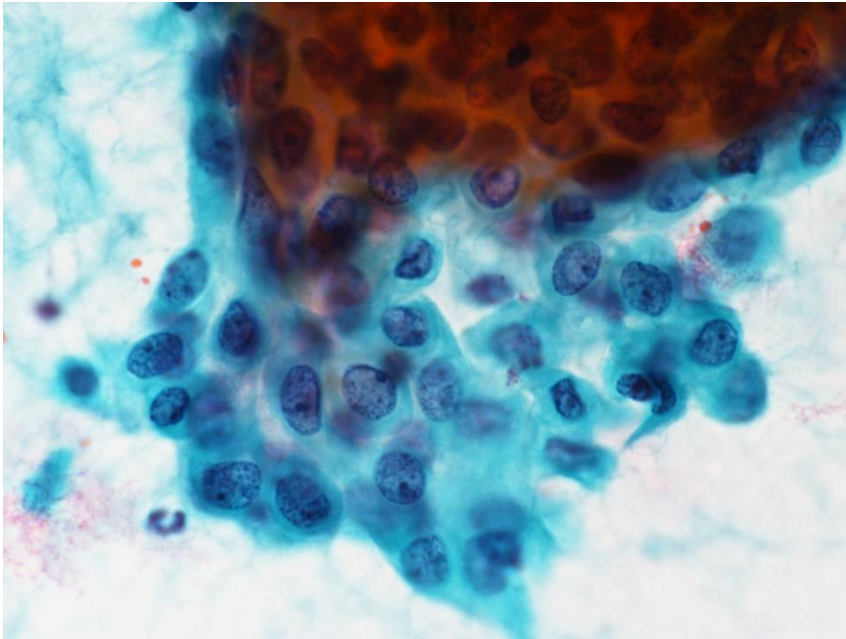
## 未熟扁平上皮化生 (immature metaplasia)



成熟扁平上皮化生  
(mature metaplasia)

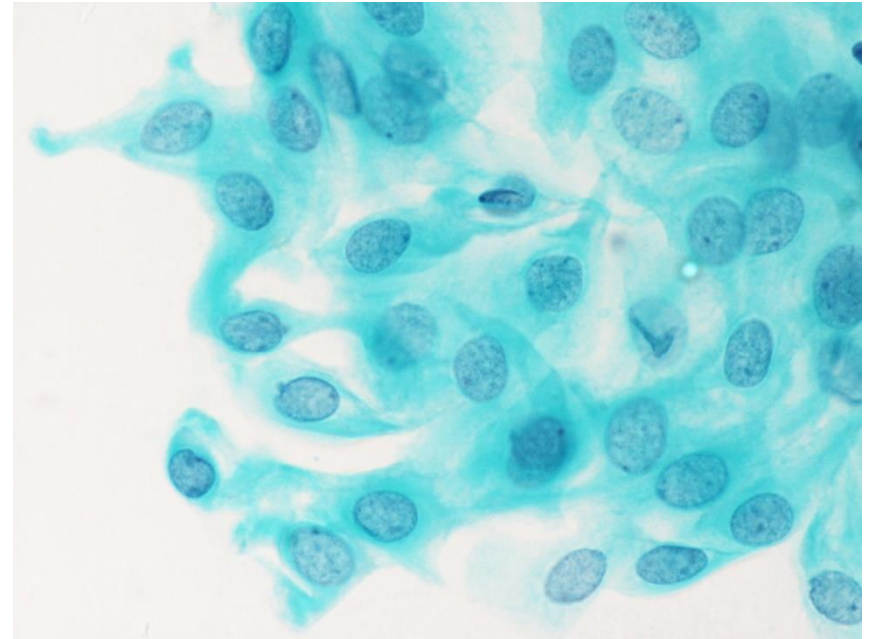


## 未熟扁平上皮化生細胞 (immature metaplasia)



- ・シート状配列
- ・多稜形または円形の細胞や  
N/C比の高い細胞
- ・細胞質にやや厚み
- ・核形は卵円形
- ・核クロマチンは均一

## 成熟扁平上皮化生細胞 (squamous metaplasia)



- ・敷石状配列
- ・ライトグリーン好性で  
やや厚みのある細胞質
- ・細胞質の突起
- ・核形は円から類円形
- ・核クロマチンは均一

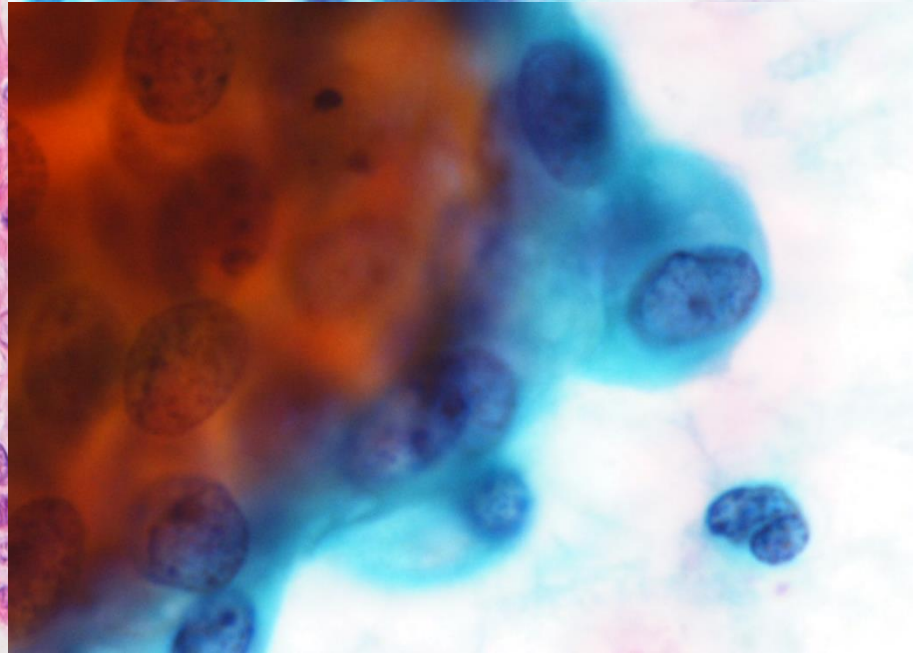
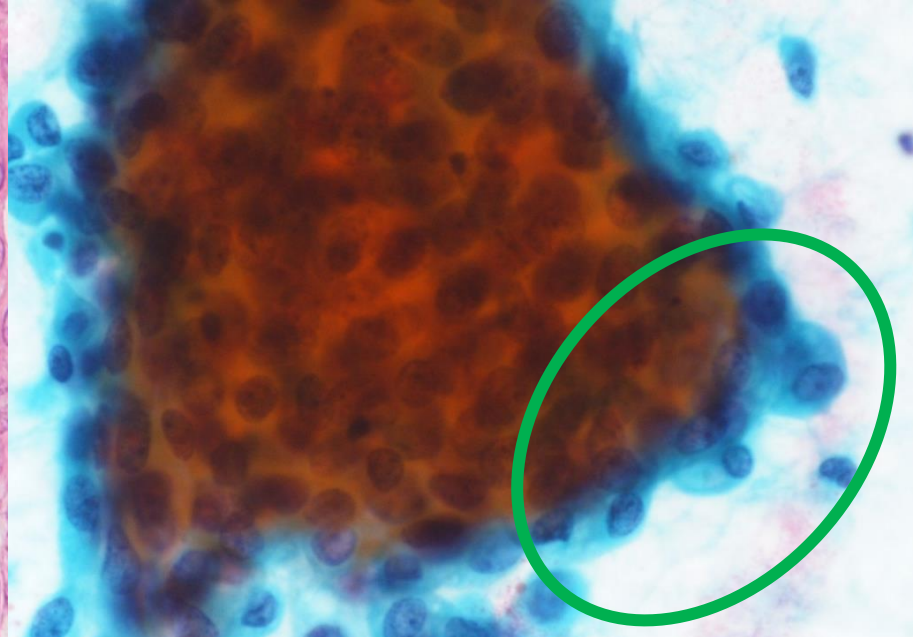
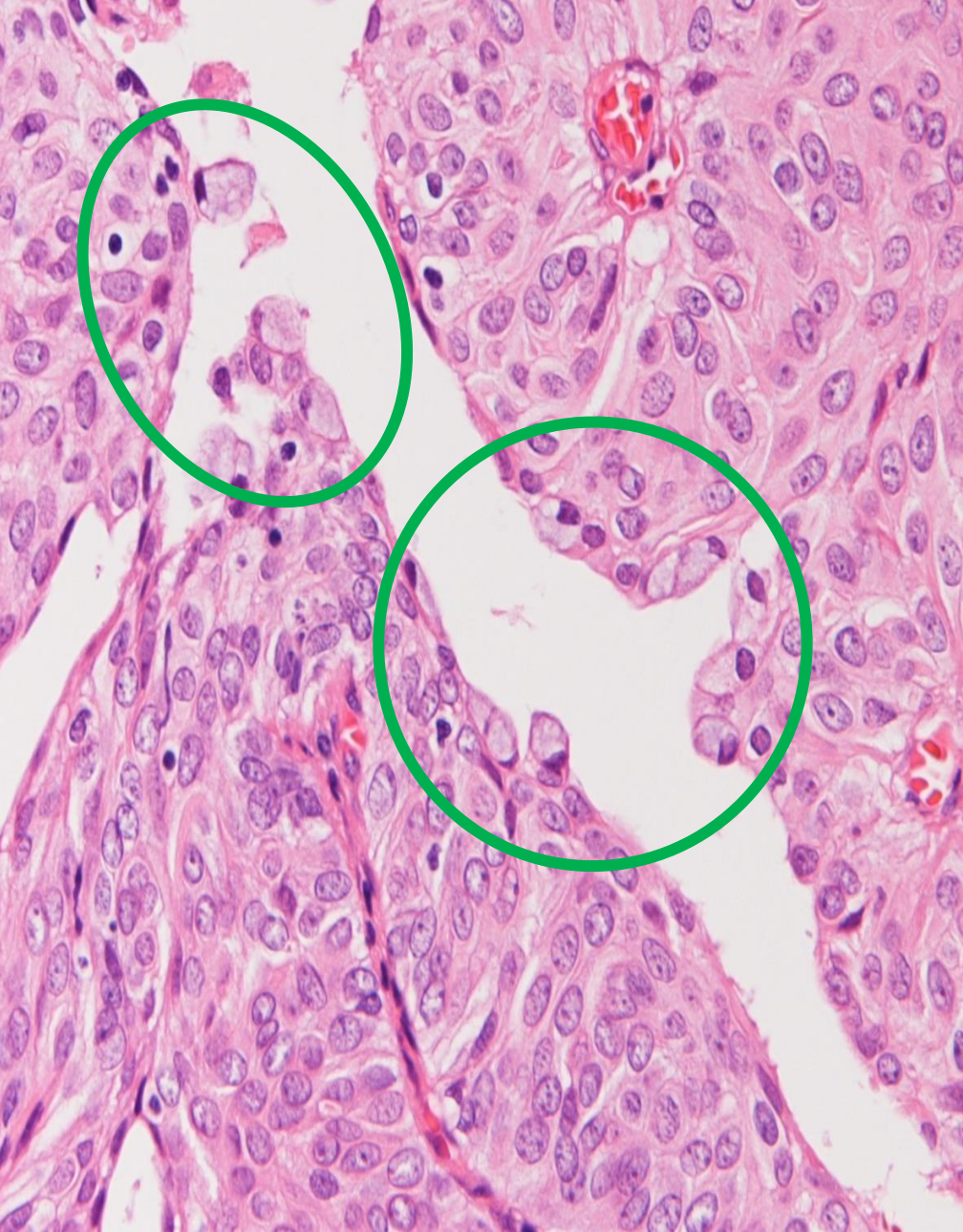


# 乳頭状未熟化生の組織学的所見

- 未熟化生様の細胞が血管間質を伴う乳頭状集塊を構成
- 配列極性の顕著な乱れはない
- 最表層に頸管腺上皮細胞が残存
- 細胞異型は軽度で増殖活性に乏しい
- 核は腫大し類円形から卵円形
- 核クロマチンは淡く増量は軽度
- HPV 6 11 16 52型との関連
- コイロサイト-シスは認められない
- p16に有意な陽性所見はない
- Ki-67標識率は約3%以下

# 乳頭状未熟化生の細胞学的所見

- 未熟化生様の細胞が血管間質を伴う乳頭状集塊を構成
- 配列極性の顕著な乱れはない
- 最表層に頸管腺上皮細胞が残存
- 細胞異型は軽度で増殖活性に乏しい
- 核は腫大し類円形から卵円形
- 核クロマチンは淡く増量は軽度
- HPV 6 11 16 52型との関連
- コイロサイトは認められない
- p16に有意な陽性所見はない
- Ki-67標識率は約3%以下

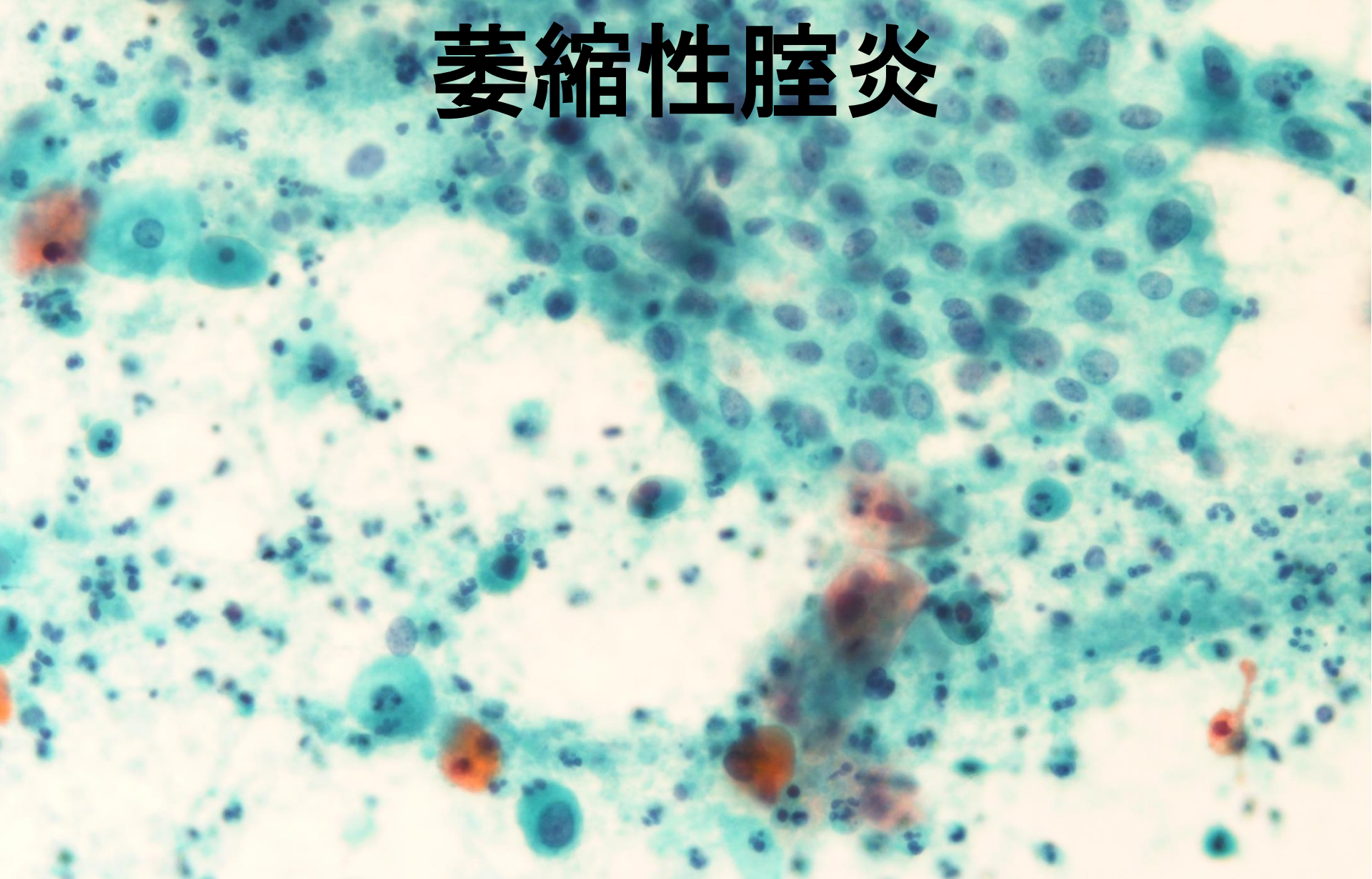


集塊最表層の頸管線細胞の残存は細胞診の細胞集塊にも認められた

# 鑑別診断

- ① 萎縮性腔炎
- ② 乳頭状未熟化生
- ③ 中等度異形成から高度異形成
- ④ 角化型扁平上皮癌
- ⑤ 乳頭状扁平上皮癌

# 萎縮性膀胱炎

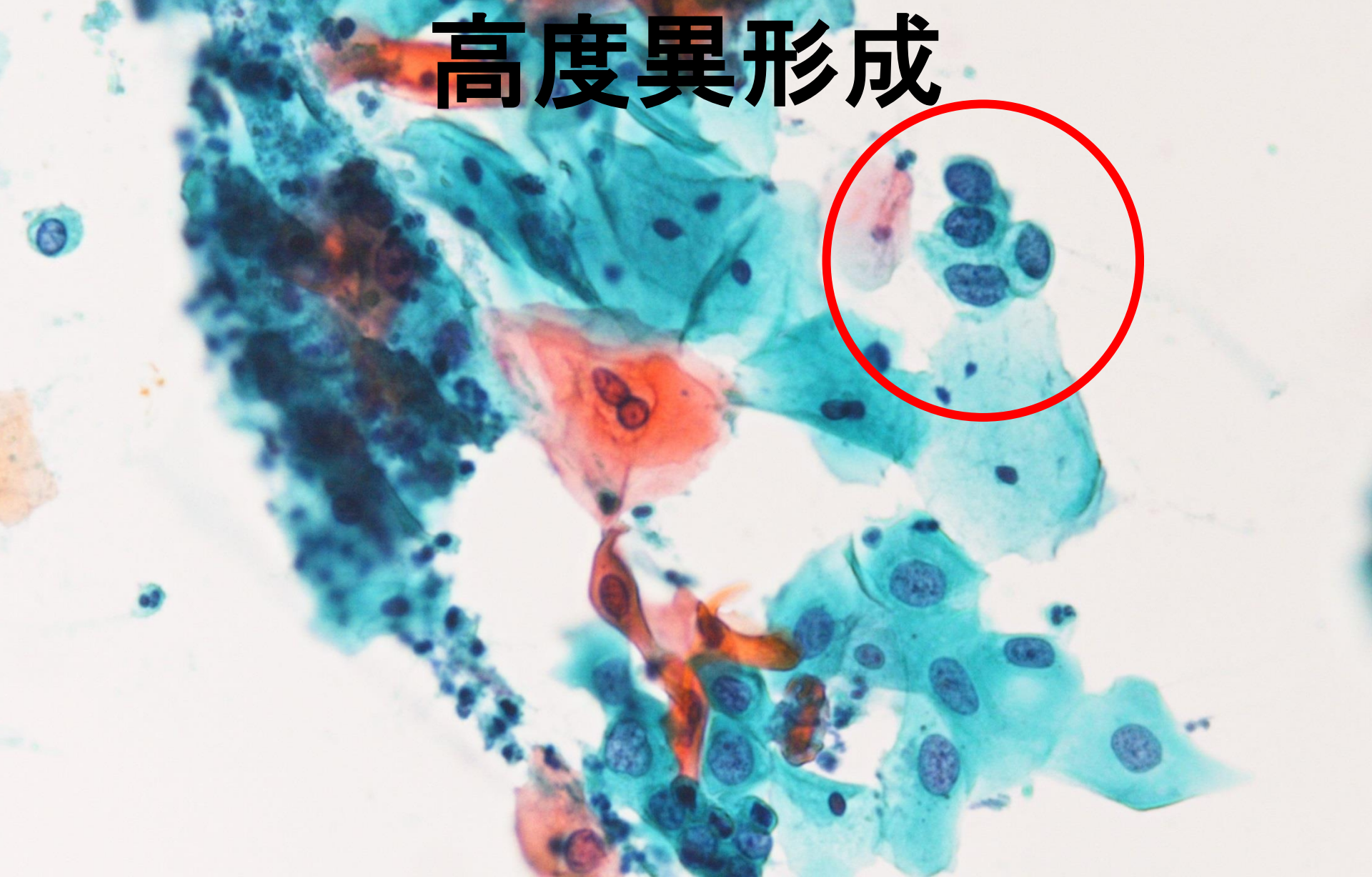


炎症性の背景に傍基底細胞主体の細胞像が認められる。萎縮した扁平上皮細胞も認められる。細胞の核には肥大、萎縮、破碎、融解などの所見が認められ、裸核状の所見も認められる。

# 中等度異形成

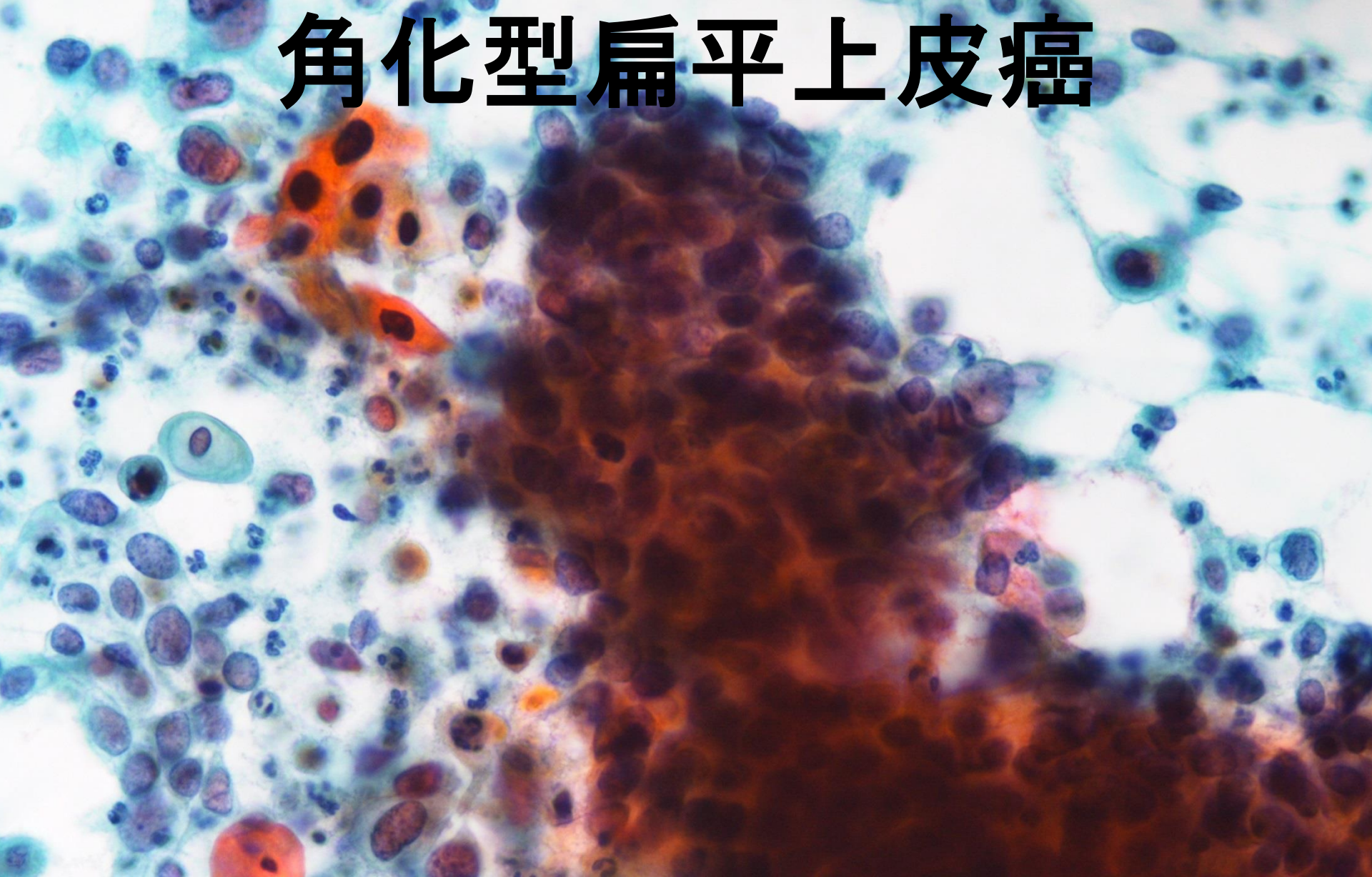
中層から傍基底型の扁平上皮細胞に核腫大、核の大小不同、核形不整が認められる。核クロマチンは細顆粒状に増量し、不均等に分布している。

# 高度異形成



傍基底型の扁平上皮細胞に核腫大、核のしわなどの核形不整が認められる。核クロマチンの増量と不均等な分布も認められる。N/C比が上昇しているのも特徴的である。

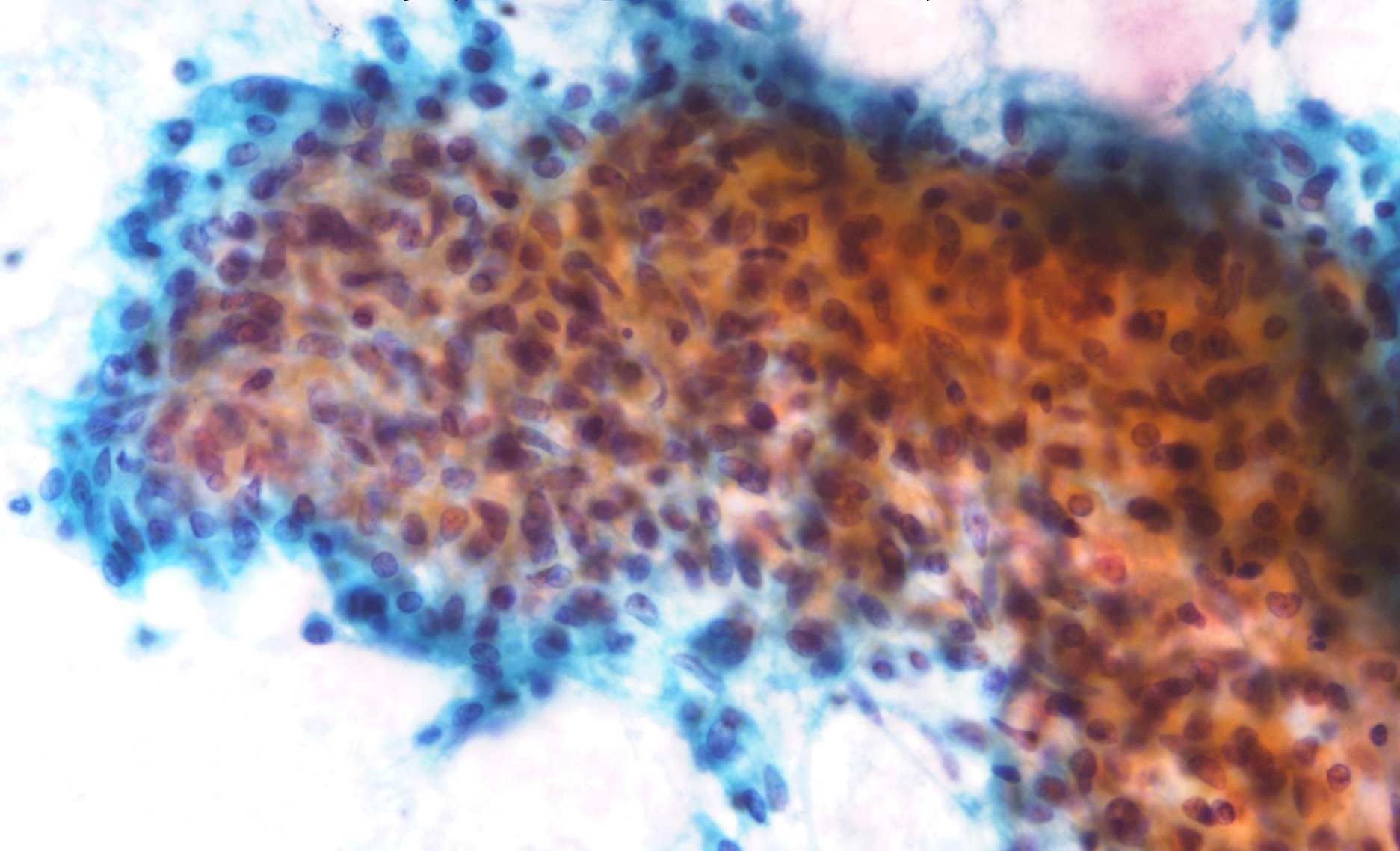
# 角化型扁平上皮癌



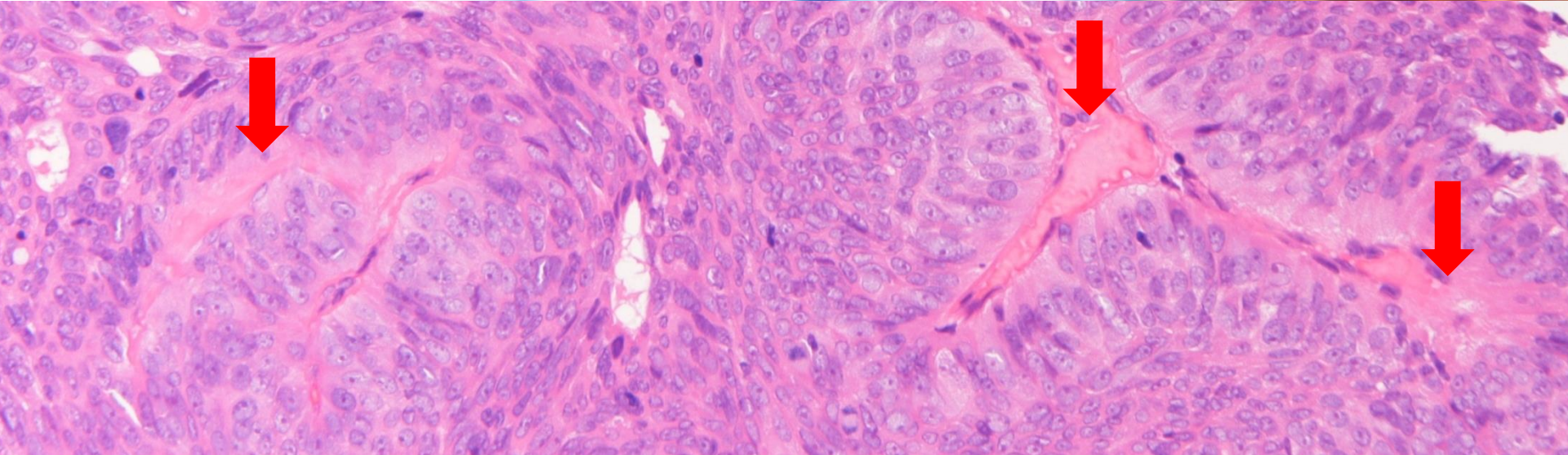
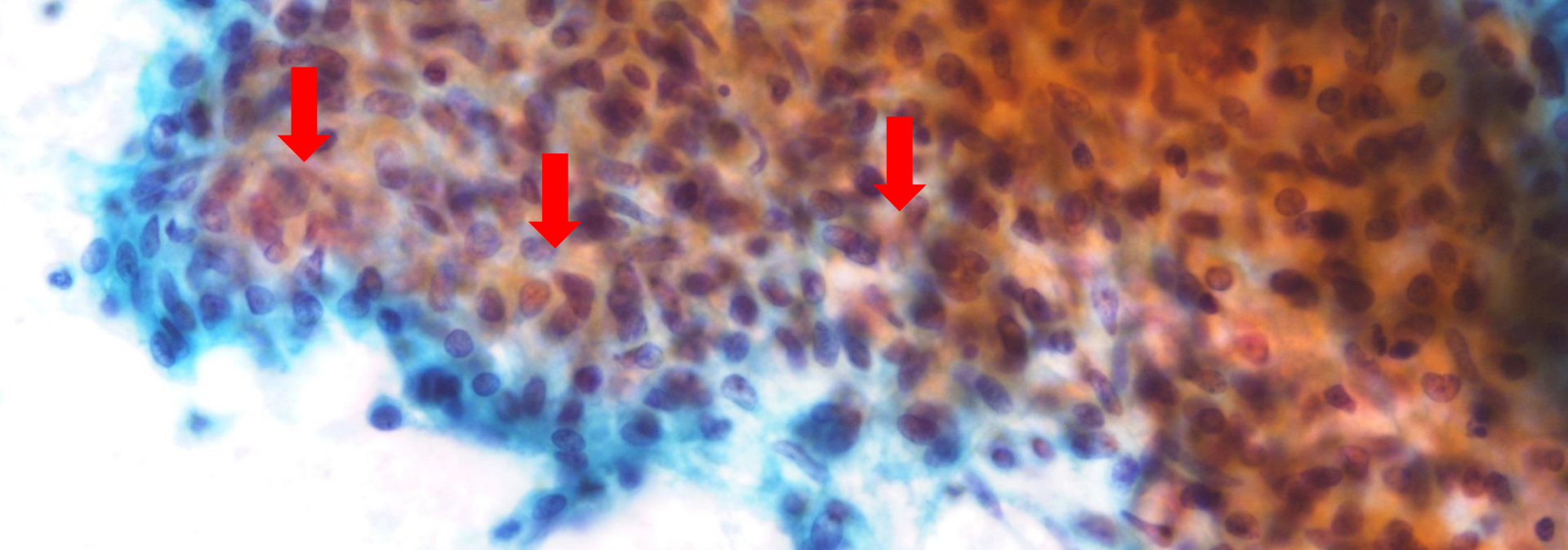
背景は出血性で壊死物質も認められる。孤立性または重積する集塊状に多彩な異型細胞が出現している。異型細胞の細胞質は厚く、核腫大、核の大小不同、核形不整、核クロマチンの増量や濃染も認められる。



# 乳頭状扁平上皮癌

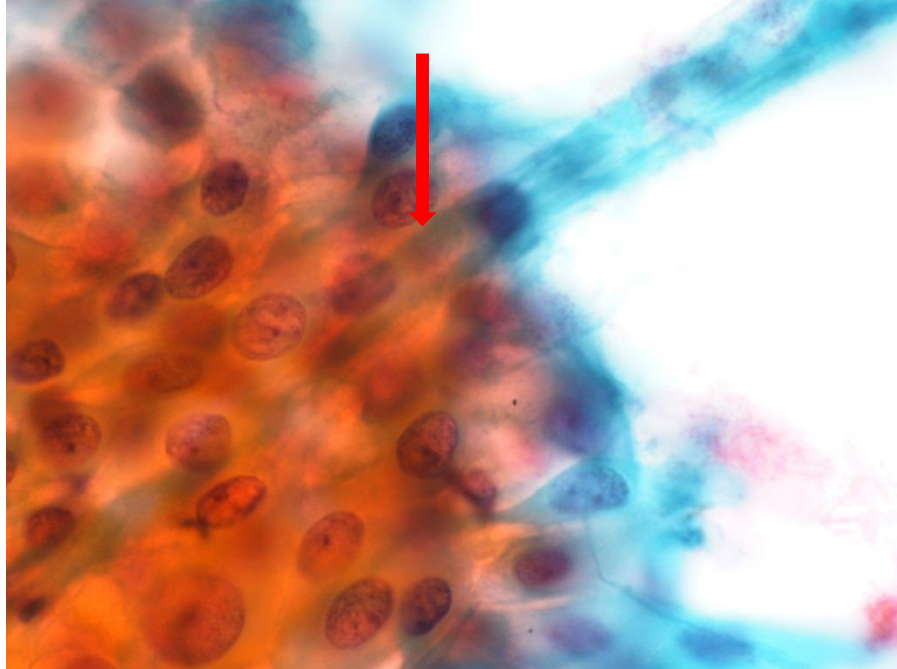
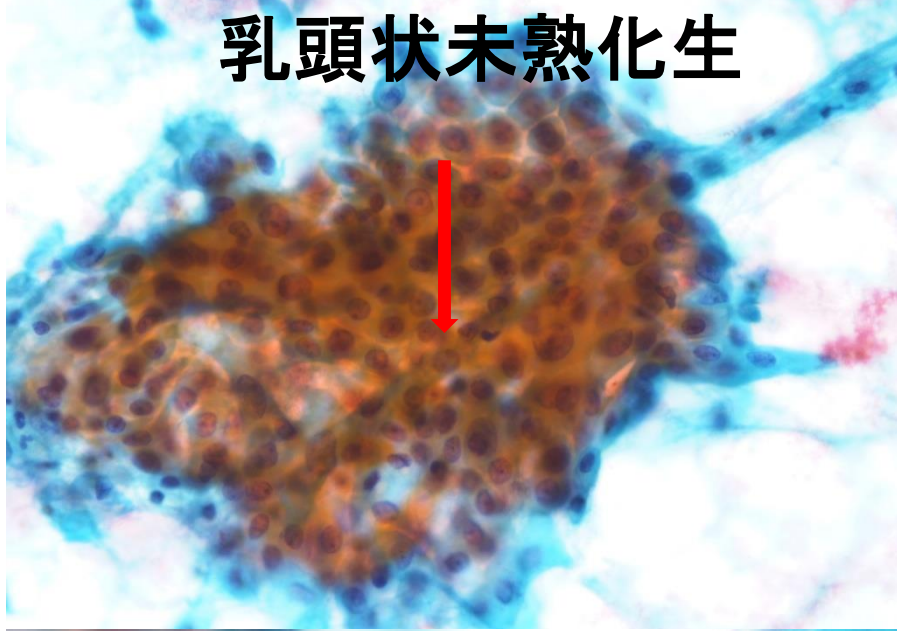


乳頭状扁平上皮癌は子宮頸部扁平上皮癌の特殊型に分類される。繊維血管性の間質を有し、外向性に乳頭状発育を示す。



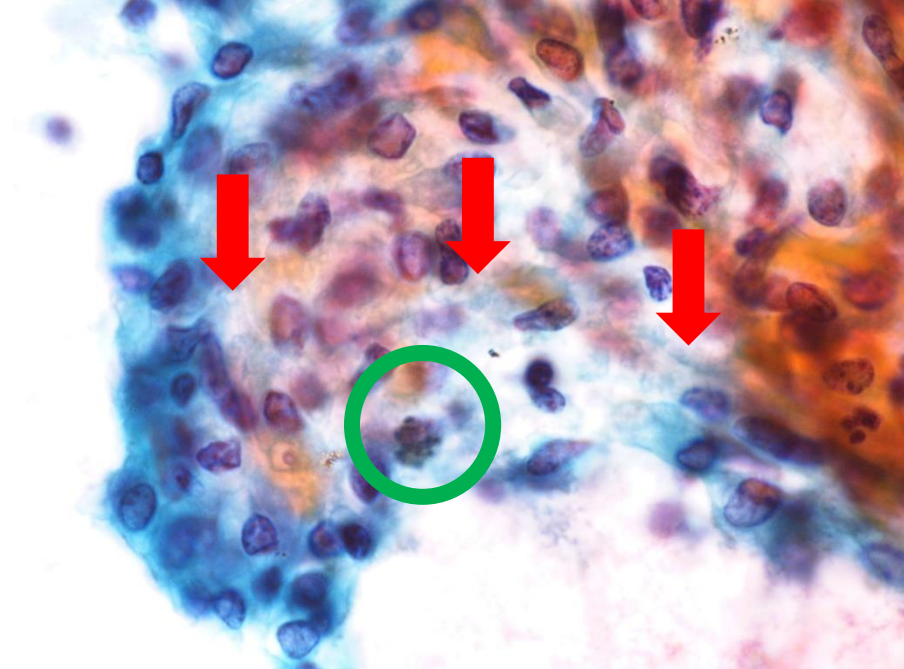
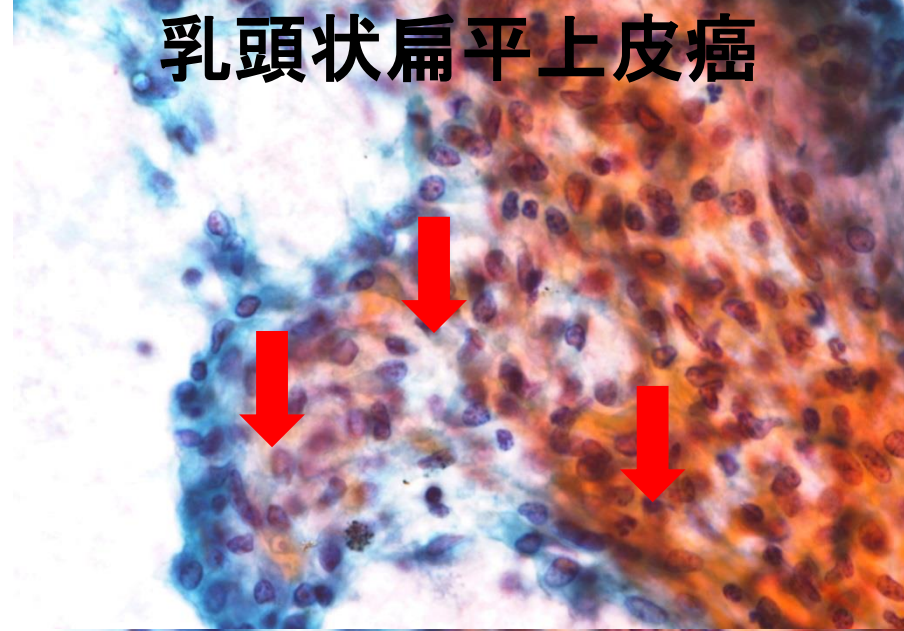
背景は炎症・出血性で壊死物質が認められる。矢印のような血管間質を有する乳頭状集塊は基底細胞様のN/C比の高い異型細胞で構成され細胞境界は不明瞭である。核は不整形で大小不同を示し、核クロマチンは細顆粒状に増量している。

# 乳頭状未熟化生



異型細胞の核異型の程度が軽度

# 乳頭状扁平上皮癌



血管間質が豊富で核異型が認められる  
核分裂像を高頻度で認める

	萎縮性膀胱炎	乳頭状未熟化生	中等度異形成	高度異形成	角化型扁平上皮癌	乳頭状扁平上皮癌
背景	炎症	きれい/炎症	炎症	炎症	出血/壊死	出血/壊死
出現様式	孤立性/平面状集塊	乳頭状集塊	孤立性/集塊状	孤立性/集塊状	孤立性/重積集塊	乳頭状集塊
血管間質	—	+	—	—	—	+
浸潤	—	—	—	—	+	+
構成細胞	傍基底型扁平上皮	未熟扁平上皮化生	中～傍基底型扁平上皮	傍基底型扁平上皮	多彩な腫瘍細胞	基底細胞様腫瘍細胞
細胞境界	比較的明瞭	明瞭	明瞭	明瞭	比較的明瞭	不明瞭
細胞質	厚い	淡明～厚い	厚い	厚い	厚い	やや明るい
N/C比	低い	正常より高い	低い	高い	低い/高い	高い
核形	類円形	類円形・卵円形	不整	不整・しわ	不整	不整
核の大小不同	比較的なし	—	+	+	+	+
核クロマチン	萎縮/破碎/融解	増量軽度/均一	細顆粒状/不均等	細・粗顆粒状/不均等	粗顆粒状・濃染/不均等	細顆粒状/不均等
コイロサイト	—	—	±	±	—	—
核分裂像	まれ	まれ	まれ	あり	あり	あり
p16	陰性	陰性/一部巣状弱陽性	陽性	陽性	陽性	陽性
Ki-67	ほとんど発現せず	陽性細胞少数	陽性	陽性	陽性	陽性

# 結語

- 乳頭状未熟化生は稀な病変であるが、乳頭状構造を形成する病変との鑑別の際に念頭に置きたい病態であった。
- 乳頭状未熟化生を考慮する所見として、細胞異型の乏しい化生上皮様細胞が乳頭状集塊を構成すること、頸管腺細胞が集塊の表層に残存すること、核分裂像が少ないことが挙げられた。